

阿波吉野川警察署庁舎整備基本構想【概要版】

01 現庁舎の概要

■ 現庁舎の位置図、正面写真



■ 現庁舎の概要

所在地	徳島県吉野川市川島町川島 550 番地 1、543 番地 2		
主な庁舎	現庁舎:阿波吉野川署 ・鉄筋コンクリート造 3階建 ・築59年	職員公舎岡山 ・鉄筋コンクリート造 3階建(12 戸) ・築30年	職員公舎川島町 2 ・鉄筋コンクリート造 2階建(8 戸) ・築51年
敷地面積	4,365.11 m ²	1,195.45 m ²	988.84 m ²
	6,549.40 m ²		
延べ床面積	1,060.55 m ²	906.23 m ²	525.80 m ²
駐車台数	80 台(職員公舎用駐車場を含む) 正面: 公用車両、来庁車両 南側: 公用車両、来庁車両、職員車両、本部応援車両 ※更に職員駐車場の不足分として別途民間から駐車場25台分を借用中		

※延べ床面積: 車庫等付属建物設備を除く

02 現庁舎の現状と課題

■ 施設の老朽化、狭隘化

- 外壁等のひび割れや漏水等、老朽化が顕著
- 平成26年春の統合により、署員数が増加し、各執務室が手狭
- 駐車場不足により、慢性的に駐車場が混雑

統合前: H25.4 旧吉野川警察署 配置定員51名
統合後: R6.4 阿波吉野川警察署 配置定員84名



現庁舎

■ 警察機能としての必要諸室の不足

- 道場が未整備であり、術科訓練に課題
- 相談室が2室のみ
うち1室は、執務室を通過する必要がある、相談者のプライバシー保護に課題
- その他、取調室(4室)等各諸室が不足



相談室

■ 災害時の対応機能不足

- 旧耐震基準に基づき建設、耐震性に課題
- 庁舎の機能を確保し、警察活動を維持するための、非常用電源や貯水設備の機能が不十分



自家発電装置

■ 利便性の不足

- 前面道路の国道 192 号は交通量が多く、平素のスムーズな来庁者等の出入りに課題
- 庁舎進入路は急傾斜となっており、出入りしづらく、冬期には凍結の懸念
- エレベーターや車椅子用のローカウンター等が未整備、来庁者用の待合スペースや記入台は通路に設置され、プライバシーへの配慮に課題
- 庁舎裏南側駐車場への進入路が分かりにくい等、駐車場の配置に課題



庁舎進入路



通路に設置された待合スペース

※写真は、現庁舎

03 新庁舎整備の基本方針、機能・性能

【基本方針】『県央部における治安・防災対策の中核拠点となる新庁舎整備』

～ 地域の安全・安心を確保するとともに、社会情勢の変化に対応するため、以下の機能・性能を確保した新庁舎を早期に整備する ～

① 治安維持機能と防災拠点機能の充実した庁舎

平時・有事の治安対策に万全を期すために必要な諸室を整備するとともに、各種捜査活動に対応した治安維持機能を設置する。

◆ 治安維持機能の充実

➢ 専門的諸室の整備

サイバー犯罪・性犯罪等への対応に必要な機能の整備

➢ 捜査指揮機能の整備

大規模事件等発生時の捜査指揮機能を備えた「捜査本部室」の設置

➢ 庁舎管理機能の充実

不審者の侵入や庁舎への不法行為を防止するための防犯機器の設置等

➢ 女性職員の職場環境の充実

十分な女性用の仮眠室、更衣室等の設置や、動線に留意し、女性職員が安心して勤務出来る職場環境の充実

➢ 留置機能の充実

県下の留置機能確保の観点などから、常設施設として稼働できる機能を有した留置施設整備を検討

➢ 公用車駐車場等

緊急出動しやすい公用車両の駐車場配置や、押収車両等の保管施設の整備を検討

南海トラフ巨大地震等の発生時や、河川氾濫時にも警察機能を発揮できるよう防災拠点機能の充実を図る。

◆ 防災拠点機能の充実

➢ 耐震性の確保

耐震性能を一般的な建物の1.5倍とするなど最高水準の耐震性を確保

➢ 浸水対応

過去の浸水被害、周辺庁舎の状況なども踏まえ、止水板の設置や、重要機器の高所設置などによる浸水対策の検討

➢ ライフライン対策

長時間連続運転が可能な自家発電設備や必要な水量を確保した貯留設備の整備等

➢ 災害対策本部機能

災害対応の指揮拠点となる諸室の設置や機能の充実

➢ 通信回線の確保

災害等の有事の際も、安定した通信環境を確保できる設備機器の導入検討



捜査本部室



被害者支援室



少年補導室



作戦室(災害等指揮室)



自家発電設備



受水槽

阿波吉野川警察署庁舎整備基本構想【概要版】

② 県民が安心感を抱くことのできる庁舎

県民目線に立った動線、諸室配置とするほか、ユニバーサルデザインに配慮し、来庁者の方々に安心感を持って利用していただける庁舎とする。

◆ 来庁者の利便性への配慮

➢ 受付窓口と待合室

来庁者の動線に配慮した各種窓口や待合スペースの設置

➢ 駐車場の確保

駐車場出入口や車路の安全性、十分な駐車台数の確保

◆ プライバシーへの配慮

➢ 相談室の拡充

被害者等が安心して話せる相談室の拡充整備

➢ セキュリティ対策

県民のプライバシーや個人情報に配慮したセキュリティ対策

◆ ユニバーサルデザインへの配慮

➢ 多様な人々が利用しやすい施設整備

車椅子用のカウンターや多機能トイレの設置のほか、多言語表示やピクトグラムの採用等

◆ 周辺環境、景観への配慮

➢ 県民の安全安心を醸成するシンボリック施設

➢ 吉野川市役所等、周辺の建物や地形・地物との調和



申請窓口



相談室

③ 新時代のニーズを踏まえた庁舎

長きに渡り、県央部の治安・防災を担う庁舎となることから、ライフサイクルコスト等にも留意し、環境に配慮したサステナブルな庁舎とするとともに、諸室の汎用性の確保や、先端技術の積極的導入を検討する。

◆ 環境への配慮

➢ カーボンニュートラルへの配慮

省エネルギー化や再生可能エネルギーの積極的導入等
脱炭素社会の実現に資する ZEB 施設としての整備検討

◆ 汎用性の確保、先端技術の導入

➢ 汎用性の確保

目的に応じた使用が出来る汎用性のある諸室整備

➢ 先端技術の導入検討

庁舎管理や業務運営等に有用な先端技術の導入検討

◆ 施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減

➢ 長期間の使用に応じる構造体や耐久性能の確保

➢ 保全や更新が効率的かつ容易に行える設備機器等の導入

◆ 木材の利用促進

➢ 「とくしま木材利用指針」に基づき、県産材の利用を積極検討



太陽光パネル



エントランスホール(県産木材)

※イメージ写真は、徳島中央警察署

阿波吉野川警察署庁舎整備基本構想【概要版】

04 整備場所、想定規模



◇ 新庁舎整備場所

所在地：徳島県吉野川市鴨島町
鴨島 88 番地 1
旧農業研究所鴨島分場
敷地面積：9,675.71 m²
(現庁舎 6,549.40 m²：宿舎敷地面積含む)
区域区分：市街化区域
用途地域：第一種住居地域



◆ 基本構想時点における新庁舎想定規模

現庁舎が抱える課題を解消し、『県央部における治安・防災対策の中核拠点』として必要な機能・性能を備えた新庁舎を想定した、基本構想時点での新庁舎の規模を示す。 なお、今後事業化を進める中で規模は、検討を重ねていく。
整備する施設等及びその各想定規模は、以下のとおり。

- ①新庁舎 延べ床面積：5,500m²程度
- ②自動車庫 延べ床面積：300m²程度
- ③駐車場 110 台以上
- ④職員公舎 単身用を6戸程度

05 事業手法、事業スケジュール等

◇ 警察署整備において想定される事業手法

- ①従来方式：公共が設計・建設・維持管理・運営を各々民間に発注する方式
- ②PFI(BTO)方式：民間が資金調達の上、設計・建設を行った後、公共に施設等の所有権を移転し、維持管理・運営を行う方式
(公共は事業費を平準化して民間に支払う)
- ③DBO方式：公共が設計・建設・維持管理・運営を民間に一括して発注する方式(資金調達は公共が行う)

- ④DB方式：公共が設計・建設を民間に一括して発注する方式

次年度、民間活力導入可能性調査を実施し、工期短縮や事業費コストの縮減効果等、さまざまな観点から評価を行い、本事業に最適な事業手法を選定する。

◇ 事業スケジュール(案)

手法	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
従来方式	導入可能性調査	入札	新庁舎設計	入札	建設	●供用開始	
PFI(BTO)方式・DBO方式	導入可能性調査	事業者選定期間		設計・建設		●供用開始	
DB方式	導入可能性調査	事業者選定期間		設計・建設		●供用開始	

※今後の事業内容の検討によってスケジュールは前後する

◇ 事業課題の整理

- 事業範囲の詳細検討(設計、建築、解体、維持管理等)
- 現在地の在り方検討
- 建設費等物価高騰への対応・配慮の検討
- 早期整備に向けた検討